



成果報告会、盛会に



2月21日(火)、いばらき量子ビーム研究センター(IQBR)にて、65名参加のもと平成23年度中性子利用連絡協議会成果報告会が開催されました。今回の成果報告会は、「いばらき成長産業振興協議会健康・医療機器研究会」との共同実施となりました。

第一部では、県商工労働部産業政策課守谷課長のご挨拶の後、特別講演として筑波大学陽子線医学利用研究センター准教授／熊田氏から「中性子捕捉療法(BNCT)の確立に向けた先進的医療機器の研究開発」と題し講演戴きました。この講演の中で、先進的な療法の確立と両輪をなす小型加速器ベースの治療装置開発の必然性や、これに不可欠な放射線計測装置、線量評価ソフトウェアにも言及され、国内外はもとより、県内企業に寄せる熱い期待が述べられました。

また、第二部の本協議会成果発表関連では、中性子を活用した製品開発事例として、(株)アート科学／長谷川氏から「中性子を用いた構造解析による光触媒の高性能化と応用」と題して、企業における中性子活用の実際を明快に説明戴き中性子活用への促進に向けた動機付けがなされました。

その後、協議会事務局、企業訪問マネージャの柏利から平成23年度の協議会活動報告を行い、実施活動実績とその成果を総括しました。

今回の成果発表会の目玉のひとつである J-PARC見学会に先行し、J-PARCセンター／物質・生命科学ディビジョン長／新井氏から「J-PARCの現状と今後の整備計画」と題して、東日本大震災からの見事な復旧結果が報告され、同時に次ステップへの具体的な計画が説明されました。また茨城県ビームライン産業利用コーディネータの森井氏から、これ迄の「茨城県ビームラインの産業利用状況」の分析結果が報告され、更なる利活用への提言がなされました。

16時からは第三部として、J-PARCセンター／広報セクションリーダー／鈴木國弘氏から、流暢かつユーモア溢れる語りで施設概要をご紹介戴いた後、J-PARC／物質・生命科学実験施設へも同行案内戴きました。参加者の多くから、着実な施設の回復と新たな整備計画に邁進する J-PARCの力強い姿に感嘆の声が上がりました。今回の成果報告会は、会員企業関係者と J-PARC研究者間の密接な連携促進のもと今後への一層の飛躍期待の中に閉幕しました。

「中性子利用技術移転推進プログラム」シンポジウム開催

2012.2.8～9

2月8日(水)～9日(木)、日本科学未来館にて(財)放射線利用振興協会主催による「中性子利用技術移転推進プログラム」シンポジウムが開催されました。本プログラムは、文部科学省から(財)放射線利用振興協会への委託事業で、中性子の産業利用促進のためJAEA実験炉JRR3の試行的利用にあたり、企業が研究者から支援を受けられるトライアルユース制度を軸に展開されてきました。これまで74グループ延べ159社が220件の実験を行い、地域別で茨城県が最多となっています。県内中小企業によるJRR3の利用状況(14社、23件)について茨城県工業技術センター児玉氏から報告があり、併せて本協議会の活動も紹介されました。また、会員企業の(株)アート科学からは中性子による光触媒の構造解析事例の発表がありました。

尚、同日隣の会場にて、(財)総合科学研究機構(CROSS)東海事業センター^(*)主催でトライアルユース説明会が開催されました。JRR3のトライアルユース制度は申請から実験、解析まで一貫した支援を受けることができ非常に好評だったため、J-PARCでも同様の制度ができれば、利用を希望する中小企業にとって、心強い支援が得られると期待されています。

(*)東海事業センターはIQBRの3Fにあります。電話番号は029-219-5300です。



会場となった日本科学未来館

J-PARC、順調に実験再開

東日本大震災以降、関係者が一丸となって復旧作業に取り組んでいたJ-PARCは、計画通り昨年12月9日にリニアックのビーム試験を開始し、現在までに中性子とニュートリノの発生を確認完了しました。そして施設の復旧に伴い、本年1月24日から施設利用実験を再開し、今後への利活用が期待されています。(詳細は、J-PARC NEWS 第82号をご参照ください)

***** J-PARC NEWS 発行 *****
J-PARC NEWS 第83号が発行されました。
URL: <http://j-parc.jp/ja/news/news-j.html>